

令和5年度 第2回 千代田区教育ICT推進委員会 会議録

日 時 令和6年2月14日（水） 午前10時00分～午前11時30分
場 所 千代田区役所 4階 教育委員会室

議事日程

開会

あいさつ 千代田区教育委員会 教育長 堀米孝尚

意見交換1（今年度の取組について）

意見交換2（来年度に向けて）

事務連絡

閉会

出席者（10名）

| | |
|-------------------------|-------|
| 信州大学 教育学部 准教授 | 佐藤 和紀 |
| 山梨大学 教育学部 准教授 | 三井 一希 |
| お茶の水小学校・幼稚園児童保護会 会長 | 原 直樹 |
| 千代田区立麴町中学校PTA 会長 | 高田 理尋 |
| 千代田区立九段中等教育学校PA 会長 | 岡野 誠 |
| 千代田区立富士見小学校 校長 | 小牧 来太 |
| 千代田区立神田一橋中学校 校長 | 盛谷 樹 |
| 千代田区立九段中等教育学校 校長 | 野村 公郎 |
| 千代田区教育委員会事務局子ども部 教育担当部長 | 大森 幹夫 |
| 千代田区教育委員会事務局子ども部 指導課 課長 | 山本 真 |

事務局（6名）

| | |
|--------|-------|
| 統括指導主事 | 内山 宝 |
| 管理係長 | 横井 新一 |
| 指導主事 | 塚田 恭平 |
| 指導主事 | 相場 奨太 |
| 主事 | 松浦 洋介 |
| 主事 | 平山 美紅 |

委 員 長

皆様、おはようございます。本日はご多用のところ、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから第2回千代田区教育ICT推進委員会を開会いたします。

本日、信州大学の佐藤委員、山梨大学の三井委員は、オンラインにてご出席いただいております。また、九段中等教育学校PAの岡野委員は、少し遅れて、オンラインで参加していただきます。また、お茶の水小学校・幼稚園

児童保護会の原委員は、都合により途中退席をさせていただきます。

なお、前回に引き続き、議事要旨を作成する都合上、会議は録音させていただきますので、あらかじめご了承をお願いいたします。

それでは、初めに、教育長の堀米より皆様にご挨拶を申し上げます。教育長、よろしく申し上げます。

教 育 長

はい。教育長の堀米孝尚でございます。委員の皆様、本日はご多用の中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

G I G Aスクール構想の本格運用も来年度で4年目を迎えるところです。国は、令和5年度及び6年度、一人一台端末とクラウド環境の日常的な活用に向けた集中推進期間と位置付けております。本区でも、先月行われた来年度の教育課程届出の説明会において、改めてICTを活用した教育の区を目指す方向性と各学校の現在地を確認し、より一層、学び方、教え方、働き方改革の推進をお願いしたところでございます。

また、来年度は新たに、保護者や地域の方々にICTを活用した授業、授業実践を公開するとともに、授業後に意見交換や講演会等を実施する「ちよだスマートスクールの日」を全11校で設定させていただきます。

学習の主導権を徐々に子どもたちに委ね、「教わる授業」から「学びとる授業」へと授業観を展開し、子どもが自ら学びを選択し、自立した学習者になることを目指していきます。

私が着任してから令和3、4、5と経つわけですが、令和5年度のこのICTの推進においては、ちょっと膠着状態かなと思っているところでございます。授業を見ても、平均的に多くの先生が活用されていますが、より一層の充実を目指すにはどうしたらよいか、今、相場指導主事にも宿題を出しているところでございます。しかしながら、この情報モラルの一層の育成と定着というのがまず大事であると思っています。まず、そこを大事にしながら、探究学習ですね。ICTをどうやって融合しながら、探究を深めていくかということが、今後、重要なポイントになってくると考えておるところでございます。委員の先生におかれましても、この辺についての本区の来年度に向けた取組を、ぜひ、ご指導、ご助言をいただければありがたいと思っています。

昨年6月末に行われました第1回の本委員会では、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきました。また本日もどうぞ忌憚のないご意見をいただき、活発な意見交換の場にしていただければ幸いです。

結びに、皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げまして、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

委 員 長

ありがとうございました。

教育長は、次の公務のため、ここで退席をさせていただきます。

(教育長 退席)

委 員 長

はい。それでは、改めまして、進めてまいります。

まずは、本日配付している資料の確認を事務局からお願いいたします。

相場指導主事 はい。本日の配付資料は、資料1、次第の下段に一覧が記載されていますので、ご確認いただき、不足している資料がありましたら、事務局へお申し出ください。オンラインの委員の方々には、事前にデータを共有しております。よろしいでしょうか。

委員長 はい。ありがとうございます。それでは、次第に沿って、本日は、今年度の取組についてと来年度に向けて、大きくこの2点で意見交換をさせていただければと思います。

それでは、最初に次第の項番2、今年度の取組について、本区の情報教育推進校である神田一橋中学校の取組について、事務局から報告をいただいた後、盛谷委員から補足説明をお願いできればと思います。

相場指導主事 はい。では、相場から報告させていただきます。

まずは、前回の振り返りをいたします。佐藤先生からは、真ん中のこの赤枠から右の赤枠に移行することが非常に難しく、考え方や価値観を変えていかなないと、恐らく突破できないところだろうというお話を頂きました。

また、三井先生からは、ICTを日常化するまで使い倒すことによって、その先に見えてくることがあること。子ども自身が学び方を選択しながら学べるように、そして、児童・生徒が一番忙しいかの視点で、授業づくりをすることなどのお話を頂きました。

8月末には、神田一橋中学校の研究の講師をお願いしている佐藤先生から、教科ごとに順番に合計3時間、丁寧にご指導をいただいたところです。

9月、学校へ訪問すると、例えば、3年生の国語の授業では、このような様子になっていました。生徒は、自分の進捗をクラウドに入力し、友達の進捗を確認しながら、必要に応じて尋ねに行きます。2人組で対話しながら、学習を進めていますが、1人でじっくり考えた後に、2人組に加わり、議論する姿も見られました。思考ツールの活用も、端末上か紙かも生徒自身が決めていました。また、情報収集、整理分析の際、端末を活用するか、しないかも生徒自身が決めていました。この間、教師は、進捗状況をモニタリングし、ファシリテーターに徹していました。本授業で見られた学びは、赤く囲った本区が目指す学びとなっていました。

また、別の日に、神田一橋中学校に訪問した際の2年生の数学の授業では、教師は生徒に学びの手引きを示し、進捗カードや振り返りカードなどのリンク先を貼り、クラウド環境を活用した授業デザインを実践していました。同じように、3年生の理科でも、進捗状況をクラウドに入力しながら、自ら学習を進めていました。

このような学びが、情報教育推進校の神田一橋中学校を中心に、少しずつ学校種間問わず、各学校でも見られるようになってきました。

事務局からの報告は以上ですが、補足説明等を、盛谷校長先生、よろしくお願ひします。

盛谷委員 はい。ありがとうございます。

パワーポイントを用意させていただきました。これは、日付のとおり、本

校の校内研修の中で、教職員に示した資料です。

本年度、学習の面での研修では、先ほどの話のとおり、個別最適な学びの充実に向けての取組を進めてまいりました。そこで、画面のように、取組方や共有したいことを改めて確認いたしました。

まず、個別最適な学びについて再確認しました。先ほど、教育長からもありましたとおり、やはり生徒が主体的に学ぶ、それを進める授業であるという、「教わる授業」から「学びとる授業」へと、教職員の中でも意識改革を進めていかないと、なかなか難しいところもありますので、それを、まず、最初に話をしました。

また、タイトルのところに、学びの複線化と書いてありますが、先ほどの資料のとおり、同じように、個別学習、個別最適な学びをやるにしても、それぞれの生徒がどういった学び方をするかというのは、それぞれに委ねて、主体的に取り組んでいるという現状があります。自分一人でやっている子もいれば、話し合い活動を中心にやっている子も、いろんな活動の仕方があるので、それに対応するような指導の方法をぜひ進めてほしいということをお話しました。

その上で、画面のとおり、教える教職員として、自覚しなければならないところが何点かあります。先ほど、国語の授業でもやっていましたが、教員がファシリテーターとしての役割を自覚するということを強調しています。全生徒の個別最適な学びを円滑に進めるというのが役割です。ただ単なる生徒に任せた授業ではなくて、しっかりと運営をやるということを重点的にこういった授業の進め方をお願いしています。また、生徒にも、目標とか、スケジュールとか、自分自身で自己調整を促すというような話を毎回毎回していかないと、定着しないところがありますので、ここも進めています。

また、先ほども出ていました進捗管理シートであったりとか、振り返りシートを基に、教員が一人一人の現状を把握するというのを丁寧にやってほしいということをお話してあります。で、最後、ピンポイントの支援ということで、取り組んでほしいという話をしています。

実は、個別最適な学びを進めていく中で、生徒の中から「あ、今日、自習なんだ」という言葉が出てきました。生徒も、ただ単に課題を渡されて、普段の授業よりもワンランク下がったような何かそういうモチベーションで進めるという、そうではないですよ、というのを認識させる必要があると思います。画面のとおり、主体的に学習に取り組むという仕組みを教員の方で意図して取り入れるとか、生徒の手応えとか、目に見える達成感とか、さらに、この取組を基に向上を目指すような仕組みというのを仕組んであげないと、先ほどのとおり、単なる自習という捉え方になってしまうので、そうならないようにという話をしています。

そのためには、繰り返しになりますが、リアルタイムで生徒の現状を把握する、それに伴って、適切な支援をやりましょうということをお話して

います。また、まとめと振り返りで、ぜひ、前向きな評価やコメントを入れることによって、生徒自らが目標としているところに対して、どのような指導ができていくかという、指導と評価の一体化というところをしっかりと目指しましょうという話もしてあります。

3番目が、実は、一番重要ななと思っています。今までの授業とは違う形で授業を進めると、どうしても生徒もそうです、保護者もそうですが、やっぱり目に見える、しっかりとした学習の定着がないと、なかなか理解が深まらないので、しっかりと取組の中で、小テストであったり、単元テストであったり、知識の部分であったりとか、思考の部分だったりというのが、しっかりと育成できているというところの確認をしてほしいという話をしてあります。

最後に来年度の話になるのですが、そうは言っても、授業中に全て完結するという生徒ばかりではありません。そのために、放課後、学生のボランティアを今後お願いして、例えば、発表の仕方であったりとか、まとめ方であったりとか、そういう技術面の部分のフォローアップであるとか、真ん中に書いてありますが、学習の底上げというところも、ボランティアを含めて、やっていきたいと思っています。

以上です。

委員長

はい。ありがとうございました。

ただいまの報告について、神田一橋中学校の研究に講師として入っていただいている信州大学の佐藤委員からコメントなどをいただければと思います。よろしいでしょうか。

お願いします。

佐藤委員

はい。ありがとうございます。佐藤です。よろしくお願ひいたします。

神田一橋中学校には、先ほど相場先生がおっしゃったように、8月にたくさん議論をして、それ以降、ちょっと私は見えていない状態ですけども、実践がたくさん変わってきているということが相場先生のスライドからよく見えました。そういった意味で、いろんな期待を込めて、お話をしたいと思っています。

そもそもICTをどう使うのかという、共通的な認識を図りたいなと思っています。今までの感覚でいうと、「ICTで学習内容を学ぶ」という感覚でいたと思うんですね。だから、ICTを使って、コンテンツが充実したみたいな話で、だから、いろんな自治体はいろんなアプリケーション入れたりとかみたいな話だったと思うんですけども、今のコンセプトだと、子どもが学習を自分で進めることなので、どちらかというと、「ICTを使って学習内容を学ぶ」というよりは、「ICTで学習を進める」という感覚になると非常にいいんじゃないのかなと捉えています。もちろん、学習内容、コンテンツが充実していて、学習内容を学べることがあるんですけども、ICTの活用を見ていただくと、学習内容を学んでいるわけではないということに気が付いていただくと、ちょっと面白いんじゃないのかなと考えていま

す。

それから、自習みたいな話があったので、何を指すのかという話なんです。基本的には、生涯にわたって学び続けられる態度や姿勢を身に付けていく、育てていくという話です。だから、その場で学習内容をきちんと完璧に学ぶみたいな話ではないということです。ちょっと分からなくても、自分一人で学べるの方が大事だと捉えていけるかというのが、考え方になるんじゃないかなと思っています。

答え合わせですけども、そういう子どもたちが、そういう姿勢や態度みたいなことが身に付いていっているかどうかというのは、例えば、先生がいないときということですね。例えば、休んじゃったとか、先生が教室にいないときです。教室にいないときに、子どもがどのくらい自分で勉強できるかということが勝負だと思っています。だから、そこに価値を見いだせるかどうかということが、今の勝負する場所だと僕は捉えております。

結局、学校に子どもたちはいつか行かなくなって、立ち立って行くわけじゃないですか。そういうトレーニングをしているんだと考えることができるかどうかです。だから、先生がいて学習できるというのは当たり前の話で、ぱっと教えられるんですから。だけど、ずっと先生がいるわけではないというような感覚になれるかどうかということが非常に大事だと思います。

先日、愛知県春日井市の出川小学校というところの校内研修があったので、行ってきました。ずっとICTの研究をしている学校なんですけども、一番いいなと思ったクラスは、インフルエンザで先生が休んでいるクラスでした。もう子どもが育っているんですね。計画的にやってきたのは先生なんだなと思いますけれども、先生がいなくても、自分でやるのが分かっていて、自分たちで進めている、一人で進めているみたいな、困ったら、先生にクラウドで、ここ、ちょっと困っているみたいな、そんなようなやり方をしているところを見て、ああ、このクラスが一番いいなと感じた次第でございました。

残り5分ぐらい、他の学校も紹介したいと思います。

1つ目は長野県の学校を紹介します。ここは、文部科学省のリーディングDXスクールに指定されている学校です。社会科の先生なんですけども、やることは決まっていますよね、始めてくださいで始めるという。つまり、何か大してしゃべることもなく、子どもたちがどんどん進めていくみたいな、そういうことをやっている学校でした。大体、何やるかということ最初に宣言をして進めるということをやっていたんですけども、こういうのが、まず、いいなと思ったのが、穴埋めではないということです。これも、ワークシートみたいな話があるんですけども、自分で知識を構成していく。だから、自分で説明ができるという話です。構成主義と言ったりするんですけども、ワークシートからいつ離れるかという話を考えていかなきゃいけないということです。

学校教育って、深い学びみたいな話をずっとしているじゃないですか。深い学びと考えていったときに、私、いつも例えるんですけども、千代田区のことを説明できる人なのか、千代田区というのが、ここに場所がありますということが分かるぐらいの人なのか、全然違うわけですよ。穴埋めばかりやっていると、千代田区ということは書けるし、場所は分かるけど、千代田区のことを全く説明ができないみたいな人に育っていきます。ですけども、千代田区ということ自分で構成していけば、千代田区というのは、こうでこうで、ああでああでと説明ができるわけですね。

だから、つまり、私の中で、深い学びみたいな話をするときには、その言葉について1分ぐらいできちんと説明ができることを考えています。千代田区と書けるけど、説明ができないみたいな話というのは、全く深くも何ともないみたいな、そういう感覚のやり方ができるかということです。こういう自分で知識を構成していくというやり方も、子どもたち一人一人がちょっとずつできるようになっていくみたいなふうにしていく構成になっていかなきゃいけないということだと思っています。

子どもたちの主体性みたいな話というのはいつでも問われるわけで、この主体性というのは、やっぱり自分の判断だと思います。判断や決定ですよ。自分で決定していくんです。この学校は、テストとかも自分のタイミングでやっている学校です。それが主体性だということなんです。主体性をどう育てるのかと考えたときに、子どもが判断するみたいな時間をいかに増やしていけるかどうか、教師の主導は子どもの判断ではないので、主体性というのはないわけですよ。ですから、子どもが判断できるように、子どもにいかに教えていくか、伝えていくかみたいなことが非常に重要になってくるんじゃないのかなと捉えています。これが1つ目でございます。

2つ目が、愛知県の春日井市立高森台中学校という学校を紹介します。ここは、文部科学省の研究開発学校に指定されていて、情報の時間というのを新設している学校です。もちろん、子どもが自分で進めていくみたいな学習をしている学校なんですけども、そういうところの板書を見ると、内容ではなくて、やっぱり方法が書かれているんですね。方法や過程が書かれている。内容が書かれているんじゃなくて、内容は自分たちで構成していくんですね。ですから、先生が板書するんじゃなくて、内容を、子どもたち自身が端末の中で構成していくという感覚です。それは、先ほどの長野県の学校と似ていて、こういうのを今まで先生がきっちり板書で整理してやっていたというところですけども、やり方はこうだよ、自分で整理していくんだよ、情報、学習内容はというようなやり方をしている学校です。

ですから、一番分かりやすいポイント、これは三井先生も後でお話ししてくださいと思うんですけども、学級を子どもが進めている学校の板書というのは、内容が書かれているんじゃなくて、方法が書かれるということ。これが一番分かりやすい判断基準なので、教室に入った瞬間に、その先生が何を思考しているのか、どういう思考法を、思考性を持っているのかということ

は、一目瞭然で判断がつくポイントになります。

この学校は、こういう一人で学習を進めていくというところのベースの力に情報活用能力を置いているということです。これは、3年生の情報の時間という時間を新設してやっている。こういう学校のカリキュラムを見ると、こういうふうには、13時間でどういふふうに進めていけばいいのか、探究していけばいいのかという方法を教えるという時間になっていたり、プレゼンテーションの時間になっていたりするということです。

こういうところは、子どもたちがやっぱり面白くて、我々の言葉で言うと、育っているという感覚だと思うんですけども、もうべらべらしゃべる。しゃべれるというのは深い学びと非常に関係性があるって、ただ言葉とか、キーワードが書けるじゃなくて、そのことについて、1分も2分も3分も永遠にしゃべれるみたいなのが深い学びだみたいな感覚です。そういう方法が情報活用能力であって、そういうのも位置付けているということになります。

ここら辺りで終わらせたいと思いますけども、改めて、そういう意味で、神田一橋中学校への期待ということをお話ししますと、ICTを使うということは当然になってきているわけですが、このICTというのをいかに質的に高めていくのかという観点でいけば、情報活用能力ということ意識していくというのが、これからやっていただきたいなというところのテーマの1つになります。

もう1つは、子どもたちをいかにどこで戦わせたいかということ、先生方が考えていただきたいというところなんです。何度も言うんですけども、先生がいなくとも、学べる子どもというのが最終目標です。今、そうじゃなかったら、きちんと教えればいいんですけども、そういうコンセプトの下に授業をつくっていけるか、そのプロセスの中にいるのかということが、僕は非常に大事なことなんじゃないのかなと思っています。

三井先生もたくさん学校に行っていますけども、リーディングDXというのが始まって、この1年で世の中大分さま変わりしたと思っています。やり方が分かってきたので、そのやり方にまず従ってやったら、大体、半年ぐらいでこうなってくるんですよ、先生たちは。その後に質を高めていくみたいな話になっていくんですけども、あつという間に、この1年、変わった学校が増えてまいりました。そういった観点で、千代田区はどうしていくのかみたいなことが議論できていけば、ますます面白くなっていくんじゃないのかなというふうに思っておりますし、本会の意味みたいなこともまた考えて、考え直していけるのかなというふうに捉えています。とにかく1年で変わりました。大分変わったので、千代田区はどうしていくのかという議論をこれからも期待したいと思います。

ありがとうございました。

委員長

佐藤委員、ありがとうございました。

続きまして、小学校・中等教育学校の取組について、事務局から報告を頂

いた後に、小牧委員と野村委員の順で補足説明をお願いできればと思います。

では、事務局、お願いいたします。

相場指導主事

はい。初めに、小学校の取組について、ご紹介いたします。

冒頭、教育長のご挨拶でもありましたけども、来年度から全校で実施する「ちよだスマートスクールの日」を、今年度、先行実施したお茶の水小学校の様子を90秒の動画でまとめましたので、ご覧ください。

(動画視聴)

相場指導主事

このような取組が区内どこの小学校でも行われている状況でございます。

次に、九段中等教育学校の取組です。ご覧のように、今年度、リーディングDXスクールの生成AIのパイロット校に指定され、実践に取り組んできました。来週20日には、その成果報告会が控えているところです。また、プレスリリースされた記事では、実際にChatGPTを使ってみることで、8時間かかっていたテスト問題の作成が30分程度でできるなど、効果を実感という小見出しが話題になりました。さらに、今月、文部科学省のStuDX Styleに中等の取組が掲載されたことも併せて、ご報告いたします。

それでは、小牧校長先生、野村校長先生の順で、補足説明等をお願いいたします。

小牧委員

はい。それでは富士見小学校の取組を説明させていただきます。

本校のICT活用について、いま一度まとめてみました。すると、児童が自己選択、自己決定できている学習に移り変わっているのではないかなと思いました。これは、道徳の授業ですけれど、友情、信頼というのを考えていて、自分の考えをまとめた後、次は意見交換をする。こうしなさいというよりも、この右下の写真なんですけども、自然と複線型の授業になるように、児童自身も教師自身も変わってきたと感じております。

はじめに低学年です。千代田区は様々な学習ソフトを入れていただいているので、タブレットにも慣れ、学習の中でもタブレットを活用できるというのが自然とできております。

次に中学年です。国語の授業ですけれども、まさに先ほど佐藤先生のお話にもあったような、教師が始めに学習方法だけ示して、残りの40分ぐらいは、子どもたちが自己選択し、自己決定する学習内容になっているということです。この間、教師は何をしているかというと、やっぱりファシリテートに注力しているという感じの授業です。こういう授業が本校では、ほとんどそうやってきたと感じております。

次は社会科の授業ですね。これも自分で社会科の学習のまとめをするんですけども、今までは教師が全部学習形態を指示していたんですが、グループでやるもよし、ペアでやるもよし、自分自身で学習を探究するのもよしという複線型の授業に自然となってきた。教師が主導じゃなくて、児童が自己選択する、自己選択、自己決定する学習に移り変わっていると思いま

す。

次は高学年です。高学年も日常的にタブレットを使っています。皆さん、この月の見え方を、小学校のときに理科の学習でしたと思うんですが、昔は、ドッチボールを持って、こうやってやっていたんだと思うんですけど、教師のほうで、月の見え方が残るといいなという提案だけして、そしたら、子どもたちが、じゃあ、自分たちでやりたいねという、そこから始まった学習です。班ごとに月と太陽の関係をタブレットで写真に収め、知識として知っている子は多いので、それを実感として、実際の体験でつかませました。

そして、実験の結果をT e a m s で共有するという学習になっています。

そうすると、まとめることがゴールじゃなくて、次、子どもたちが言ったのは、もうちょっとこういうことを学びたいなとか、ここはどうなっているんだという疑問が湧いてくる。やっぱりICTを活用することで、自然と、探究と言っているのか、疑問が湧いてくる。次の学びに進みたいと思う児童が増えてきたように感じております。

次の事例は社会科です。社会科は今、テーマを選択するという学習が増えているので、震災復興の願いを叶える政治を調べるか、子育て支援の願いを叶える政治を調べるか。そのようなテーマの下、1つを自己選択する。選択した後に自分で調べていく。それをグループで共有して、意見をもらうというのも、これは日常的な学習で進められている。

学習のまとめじゃなくて、児童間の進捗も、教師だけじゃなくて、児童間でも進捗状況も分かるようになっております。

次は保健指導でも、もう当たり前前に教師がICTを使っていますというスライドです。

次は、教職員の研究協議会の様子です。これは、保幼小、うちはこども園とも連携しているので、こども園の先生方とも一緒に研究協議会をやったんですが、そのときも、タブレット1つで、左下、ホワイトボードを使うことで、意見の交流をしております。本当に、今までのホワイトボードと今までの協議の記録も分かり、じゃあ、今回、どういう協議をしようかということも分かる。また、毎回、こども園の先生方も出てくるわけじゃないので、来たこども園の先生でも研究協議にすぐに入れるという利点があります。

最後です。ほんと、入学当時からタブレットを活用していることで、最初申し上げたとおり、児童が自己選択、自己決定できる学習に変わってきているように思っております。このような学習形態を進めていきたいというふうに思っております。

以上です。

委員長

ありがとうございます。

野村先生。

野村委員

はい。今、相場指導主事からありましたけども、今度の20日に、生成AIパイロット校の報告会がありますけれども、ウェブでも参加できるということですので、もし、ご興味があれば見ていただければと思います。

生成AIで、生徒も教員もAIを今使っているところなんですけど、何が伸びるかという、対話力ですね、生成AIというのは、答えを出してくれるものではないので、いかに対話力を高めながら、答えを導いていくというところかなと思います。来年度から本格的に始まっていくというところですけども、そこは、非常に成果が出るころだろう、対話力というのは成果が出るころだろうかなと思います。

あと、こういった情報については、個別最適な学びと協働的な学びということが常にクローズアップされるわけなんですけれども、学校で行うときに、そこをどう考えていくか、原点に戻って、協働的なもの、学びとは何か、個別最適な学びとは何かというのを、もう一度、きちっと押さえておく必要があるのかなと思います。それは、協働的な学びと個別最適な学びを分断して考えるということではなくて、同じ授業の中でも、それが両立しているはずなので、そこをしっかりと押さえておかないといけないのかなと思います。

本校の情報教育がどのように行われているのか、今週の金曜日の10時からNHKで放映されますので、今後の取組の参考にしてもらえればと思います。

以上です。

委員長

はい。ありがとうございます。

そうしましたら、ただいまの報告や説明などについて、山梨大学の三井委員からコメントを頂ければと思います。

三井先生、よろしくお願ひいたします。

三井委員

はい。山梨大学の三井でございます。皆様、おはようございます。私も、10分ほどお時間を頂いておりますので、少しお付き合いいただければなと思っております。

私、直接、千代田区の学校に入っているわけではなく、このような協議会の中で、千代田区を取組を把握しているような状況でございます。ですので、ほかの学校ではどんなことが行われているのかとか、これからこういったところが大事なんじゃないかみたいなお話ができればと思っております。

先ほど、小学校、中等教育学校のお話を聞かせていただきました。例えば、「ちよだスマートスクールの日」といったものを設けて、これを展開していく取組というのは、やっぱりほかの地区の参考になるんじゃないかなと思います。特定の学校だけ頑張るんじゃなくて、みんなで千代田区頑張っていくみたいなのが非常にいいなと思って、聞いておりました。

また、小学校のほうからは、自然に複線型の授業になってきたというお話があったと思います。これがまさに、じゃあ、複線型の授業をやろうよみたいな形が最初だったと思うんですけど、それが自然になるということが、やっぱり望ましい姿ですし、授業改善の日常化、また、それからの広がりというところにつながっていくのかなということを思いました。確実に前進しているんだなということを、今日のご報告から感じたところでございます。ま

た、先生方の校務であるとか、研修での教師の日常ですよね、日常的に使っているなんてことも、かなり普及してきた証拠ではないかと思っております。

併せて、中等教育学校では、生成AIのパイロット校となったことで、様々なチャレンジを行った1年ではなかったかと思います。先ほどお話があったみたいに、対話力が伸びるといのは、この生成AIを使うことで、対話力だとか、そこからより学習が深まるとか、そういうところにつなげていくのがいいのかなと思います。パイロット校だからこそ、ぜひ、いろんなことをチャレンジしてみて、それを横展開していくといったことが必要になってくるんじゃないかと思います。

そして、この端末活用の日常化、大分、千代田区の端末活用が日常化してきましたので、じゃあ、その日常化の先にあるものを追求していくということが、これから求められるところかなと思います。

私もいろんな学校に行くんですけど、例えば、今年度参加した授業ですね、先ほど佐藤先生のお話にあったみたいに、穴埋めやプリント学習にまだに終始している学校、実はあります。でも、この学校も端末を使っているんですよ。じゃあ、どういうところで使っているかといったら、先ほど写真にも幾つか出てきた、例えば、学習の流れを示すとか、振り返りを書くとかというところなんですね。だから、端末を使っていますということになってしまう。でも、実際は、穴埋めやプリントがメインになっている。これも、結局、先生の指示とか、先生のペースでみんなで作っていくみたいところで、学習が進められている。

右側のほうは、教師の説明動画ですね。これ、こんな使い方があるんだというふうに私も思ったんですけど、画面共有をするんですよ。先生の画面をみんなで、例えば、Zoomとか、Teamsとか、Meetに入ると、先生が画面共有したら、手元で見られますよね、先生の画面が。だから、先生も説明しやすいから、端末を使って、みんなでつなぐみたいな形で、それをもってして端末を使っているでいいんだろうかみたいなところは私は疑問をもっているんですけど、やっぱり自分の見たいところを自由に見られるということが大事なんじゃないかなと思います。

何か先生がプリントを配信しなくても、フォルダーにあるから、自分のタイミングで見に行ける。そして、今、これが必要だから、情報を取りに行きたい子どもたちを育てていく必要があると思っております。

こちらは、石川県の加賀市です。加賀市も、市を挙げて、学校を改革しようみたいなことに取り組んでいます。教育委員会が主体となって、全ての管下の小中学校で授業改善を進めています。そろえる教育から一人一人を伸ばす教育へと変えていくんだということをやっています。今までは、みんな一緒に同じことを同じ方法でやっていたものを、これからは、自分のペースで自分で学んでいく、学び合って、助け合って、共に学ぶ。まさに、今、令和の日本型学校教育が目指しているところだと思います。

これからの学び、いろいろあるんですよね。もちろん教室にとどまらずに、廊下とかを使うことも1つかもしれませんし、学ぶ場所を選ぶ、学ぶ人を選ぶ、学ぶツールを選ぶ、学ぶ深度や、選択だけでもいろんなものがある、じゃあ、何が正解かというのは当然ないわけですよね。ご自身が自分の学びを調整していく。先生方は、そこに向けて、どんな支援ができるかということを考えていくということが大事なのかなと思いますので、大事なことというのは、やっぱりそろえる教育から一人一人を伸ばす教育だと思います。そこへ向けて、私たちは何ができるかということではないかと思っております。

今、個別最適な学びと協働的な学び、一体的な充実へ向けて、いろんなところで挑戦が行われております。私も、いろいろな地域やいろんな学校を見ているんですけど、どうやら共通項があるんじゃないかということをお最近思っております。ここに5つ示したんですけど、これは、私の経験値として、比較的うまくいっているような自治体とか学校、大体、この5つが入っているんじゃないかなということを感じております。

1番は、課題の達成に向けて、子どもが選択して、自己調整をする場面があるんですね。先生方は、こういった場面をつくっているか、機会を提供しているかということが大事になります。2つ目としては、情報へのアクセスと、子ども同士のつながりをクラウドが支えている。これが前提ですね。端末活用というものが前提にあって、個別最適な学び、協働的な学びというのが進められている。3つ目が、学びを深めるための教師の適切な介入。4つ目が、追求しがいのある課題設定。5つ目が学びを支援する手だてですね。この手だては、先ほど佐藤先生の写真にもあったみたいな学習の手引きであるとか、学習過程の共有などが入るかなと思います。

つまり、学習者の学びを支えるために何ができるかということが大事ですし、今日、いろんな場面で議論になっている自習ということですよね、個別最適ふうの自習にしない。そのためにも、やっぱり追求しがいのある課題設定がなされているとか、手だてがあるとか、適切な教師の介入、この介入はおせっかいという意味ではなくて、適切な適時のタイミングでの介入というのがやっぱり学びを深めるためには必要なんではないかと思っております。

高校も、当たり前前の文具として活用しています。私、先月ですね、福島の高校に行ってきたんですけど、もう当たり前前に使っているんですね。これ、大学生も当たり前なんです。もう何かノートを取るとか、分からなかったら調べるとかということが、当たり前のように、何かこの教科だからこう使わなきゃとか、高校だからこう使わなきゃということはあまりなくて、むしろ当たり前前の文具として活用するということが大事なんではないかと思えますし、その先につながっていくことだと思います。

高校では、情報Iが必修修化されていますので、探究的な学びの中でプログラミングを学んでいるということがあります。このような探究的な学びの中で学ぶということが、今求められているのかなと思います。今日はプログ

ラミングをやるよ、じゃあ、みんな、ソースコードを書いてという形ではなくて、何か課題があって、それを解決するためにプログラミングするんだとか、じゃあ、もっとよりよくするためにはどうすればいいんだろうというふうに考えていく。情報Ⅰを通じて、学び方ということも学んでいるのかなと思います。

また、中学校では、全校体制として、こういっためあてとか、学習活動、ルールみたいなものを示すということを取り組んでいるところがあります。この全校体制というところがやっぱりポイントかと思います。特定の学級とか、特定の学年だけじゃなくて、全校でやるということで、子どもたちが学年が上がったとしても、当たり前になっていきますし、それが学校の文化にもなっていくんじゃないかなと思います。

例えば、こちら、小学校ですね。この若手の先生も、今、授業改善に取り組んだチャレンジをしています。周りの先生からいろいろ聞いてみて、どうすれば学習者主体の学びになるかということを追求していました。ちょっと難しい問題、ラグビーボール型の面積ですよ。こういったものを最初にみんな確認して、それぞれやっていくんですけど、やっぱり前提としては課題とか、目標とか、流れみたいなものがクラウド上で共有されているというのがあるかと思います。子どもたちはノートに考えをまとめたりとか、プリントに考えをまとめたりとか、デジタルに考えをまとめたり、いろんなことをやっています。

黒板も、先生のものだけではなくて、子どもたちが議論するものになっているんですね。この子どもたちが議論しているのを見て、黒板って、保存できない。だから、端末を使って残しておいて共有するみたいな形で、アナログでやっても、デジタルを基盤にするということが大事だと思います。

今、手段を選ばせるから、アナログでやるか、デジタルでやるかを選ばせることが個別最適だみたいなことをよく言われるんですけど、私はそうじゃないと思ってまして、デジタルが基盤になる、アナログでやっても、みんなが共有できたりとか、保存できたりとか、過去に遡るためには、みんながやっぱりデジタルの土俵にいなきゃいけないので、だから、デジタルを基盤にするということが大事だと思います。

こうした難しい問題であっても、私たちって、この瞬間が見たいんじゃないかなと思います。ちょっとご覧ください。

(動画視聴)

三井委員

という形ですね。言わせたわけじゃないですよ。本当にこういうことがあるんですよ。

「あ、分かった！」という瞬間って、先生が教えたから分かった、確かに嬉しいかもしれませんが、いかに自分たちで発見できるか、友達と協力して解決できるかというところがやっぱり大事なんじゃないかなと思います。こういった場面を見るために、私たちはどんな支援ができるかということを引き続き考えていくということが大事だと思います。

今、協働的な学びが非常に言われております。そういったところって、やっぱり学級経営的な要素も強いと思います。今までも大事にされてきたところですけども、縦軸に日常のつながり、横軸に学習のつながりを取った場合に、子どもたちは大きく4つに分かれるかなと思います。日常のつながりも強くて、学習のつながりも強いとかという一方で、どちらも弱いとかという、日常のつながりは強いけど、学習でのつながりが弱い。つまり、休み時間や放課後はよく一緒にいるけど、学習の場面ではできない。その逆もまたあるかもしれない。と考えた場合に、やっぱり望ましいのは、右側ですよ。日常のつながり、学習のつながりが強い、または、学習のつながりが強いところ、日常のつながりが弱くても。人間関係は、なかなか子どもたちも難しいので、せめて学習でのつながりを強くもつということが大事ですし、日常のつながりが弱い人は、せめて学習の中でつながることが、あなたの力になるんだよということ子どもたちにも自覚化させる。そして、先生もそこに支援していくということがやっぱりないと、なかなか協働的な学びとか、学ぶ相手をやっていくところに広がりが出てこないのかなということも思っておりますので、これまでも大事にされてきたことということも含まれるんですけど、今、端末があることで、より今まで大事にしたことをもう一度見直しして、子どもたちと一緒に取り組んでいくということが必要になってくるのかなと。

委員長 お時間が参りましたので、ここまでにします。ありがとうございました。
三井委員、ありがとうございました。

次に、これまでの報告を受けて、保護者代表の委員の方々から感想やコメントなどを頂ければと思います。

原委員 初めに、お茶の水小学校・幼稚園児童保護会の原委員、お願いできますでしょうか。

はい。お茶の水小学校児童保護会の原と申します。よろしく申し上げます。

私からは、保護者の観点といたしますか、日常的なこと、感じたことを発表させていただきます。

各クラスの宿題の案内は全てタブレットに発信されまして、そのタブレットを見て、今日はドリルをやるのかなとか、プリントをやるのかとか、音読なのかとか、いろいろそこで指示を受けて、そこから実際に筆記する宿題であったり、タブレットの中でやる宿題だったりということになされています。これは、先生にとっても、生徒にとっても分かりやすい取組で、とてもよいのではないかと思います。帰ってきてから、必ずタブレットを確認するというので、充電をしているかどうかということも確認しなくてはならないんですが、どうしてもまだ充電をせずに学校に登校してしまったりですとか、あと、そもそもタブレットを家に忘れてしまうという、もう根本的にちょっと学習ができないということになってしまうことがまだ見受けられるようです。

忘れてしまったりとか、充電し忘れたというのは、しっかり指導をして、絶対、これからの社会に出ていくときに、忘れ物とか、そういうことはいけないんだよということも交えながらも、勉学の面では、ちょっと後れを取らないような取組もしていければいいんじゃないかなと思いました。

また、あと1点気になっているのが、アフタースクールでは充電ができないということです。いろいろセキュリティの面とか、いろんなお子さんもいらっしゃる中で、コンセントの監視することは難しいのかなという判断だったんですが、その辺りも変えていければいいのかなと思いました。

また、ランドセルの軽量化ですね。それに向けての取組も、お茶の水小学校でも大分されているようでして、教科書も毎日持って帰らなくてはいけないものを学校になるべく置けるようにできたりとか、タブレットで完結できるものも増えてきているようです。ランドセルがだんだん重くなってきて、大変だったこともありましたが、しっかりその辺りも引き続き取り組んでいただければと思います。

また、ちょっとタブレットではなくて、PTAの活動として、千代田区さんのほうで「すぐー」を使わせていただいていると思うんですが、こちら、とても保護者の間では助かっていまして、ペーパーレスですとか、手紙配付の面でも大分恩恵を受けて、先生にとっても、保護者にとってもとてもいいのではないかなということになります。

ただ、ちょっと子どもにプリントを渡すという作業も、必要な場面もあるので、親に見せちゃうと、親の判断でなくなっちゃうんですけど、例えば、ドッジビー大会ですとか、子どもが出たいというところは、プリントで配付していただいて、そこからQRコードで登録したりとか、そういうこともできますので、オンラインとアナログを使い分けながらでもいいのかなと思いました。

また来年に向けて、ぜひ、進んでいければいいなと思いますので、よろしくお願いします。

委員長

原委員、ありがとうございました。

高田委員

次に、麴町中学校PTAの高田委員、お願いいたします。

はい。情報活用能力実態調査の結果の中学のところ、その部分から感じたところでスライドを作ってきたので、後半のところでお話いたします。

委員長

はい。後半のほうで。じゃあ、この場面ではよろしいですか。

高田委員

はい。今年度、新しくまた端末をいただいて、子どもたち、随分使っております。本当にありがとうございました。

委員長

ありがとうございました。

続きまして、九段中等教育学校PAの岡野委員、ご意見をお願いできますでしょうか。

岡野委員

はい。ありがとうございます。

まず、野村校長先生もお話しされていたように、生成AIは対話力を高め

てくれるようになったと。そういう理解でなかったのが、本当にこの時代の変化が激しくて速い、そんな時期に、学校教育関係者の皆様が本当にスピーディーにいろんなものを取り入れて活動してくださっていることに、心から感謝いたします。

一方で、先ほど三井先生のお話にありました自分のペースで学ぶ、学び合って、助け合って、共に学ぶ、これが個別最適な学びですというようなお話がありました。これは本当に非常にいいことだと思っております。まさに社会に出て活躍できる人材の育成、これを実現するような学びが教育の現場でできているというのは、本当に素晴らしいことだと思っております。

一方で、ちょっと保護者として心配なのが、この自分のペースが学校や教育委員会が想定している以上のペースの子どもたちはいいと思うんですけども、逆に、それが想定しているペースよりも遅い子どもたちも、もちろん個性としてあると思うんですね。そういったときの対応をしっかりといただかなきゃいけないのかなというふうに、一保護者として感じました。

じゃあ、我々、保護者会は何ができるのかというと、やはり先生方がどんどんどんどん新しいものを取り入れてくださっているの、先生方がこの新しいものを取り入れて、今、私が申し上げた課題は、今までの教育の現場ではなくて、しかも、非常に難易度の高い課題だと思っております。ですので、保護者として、我々は先生方のサポートをしなきゃいけないなというのを改めて感じました。先生方の教育の質の向上だったり、負担軽減を目的として、例えばですけども、雑多な雑務だったりとか、保護者会でお手伝いできるような先生方の業務を少しでもサポートして、先生方と子どもたちによりよい環境をお手伝いできるように、これからも動いていかなきゃいけないな、そんなふうに思った次第です。

以上です。ありがとうございます。

委員長

岡野委員、ありがとうございました。

ここまで、項番2の今年度の取組について、おおむね意見交換をさせていただきました。

次に、来年度に向けて、意見交換できればと思います。

初めに、令和5年度本区における情報活用能力実態調査の結果について、事務局からご報告をさせていただきます。お願いいたします。

相場指導主事

はい。来年度に向けて、今年度の本区における情報活用能力に関する実態調査の結果を確認していきたいと思います。

資料3をご準備ください。調査対象は、区内公立学校の児童・生徒。実施期間は、昨年12月上旬から中旬にかけて。質問項目につきましては、村上ら2021の論文を参考に、本区の実態に応じて作成したものです。

考察については、後ほどお読みください。

ここでは、発達段階ごとにポイントを絞って、確認していきたいと思います。

まずは、小学校低学年の2ページをご覧ください。設問6と8について、

調査を実施した令和3年度から、年々、「当てはまる」と回答した児童が低下していることが気になるところです。

次に、小学校中学年です。4ページをご覧ください。設問3、「キーボードなどで文章を打つことができる」が、これも年々低下していることが気になるところです。

次に、5ページの設問6です。これに関しては、今後、より一層、クラウド環境を生かした授業デザインが求められると考えています。

次に、9ページです。こちらの二つの設問から、まとめて発表する学習活動を日常的に行っていきたいところです。

次に、小学校高学年です。14ページをご覧ください。各項目とも年々向上していることが分かります。

15ページ、設問21から23についても、年々向上しています。

一方で、11ページに戻ります。設問6、「調べたことやまとめたことを送ったり受け取ったりすることができる」や17ページの設問31、「調べたことや読み取ったことを参考にして自分なりの考えを伝えるようにしている」に関しては、来年度以降、意識して取り組んでもらいたいところでございます。

最後に、中学校・中等教育学校です。18ページをご覧ください。このページの設問については、スキルの設問ですが、年々確実に向上していることが分かります。

一方で、21ページの設問13から22ページの設問17までの情報モラルに関するような設問について、昨年度より低下していることが分かりました。来年度は、情報モラルについて、もう一度しっかりと確認、指導していく必要があると考えます。

また、24ページの設問28、「調べたり、まとめたりする計画を立てることができる」や25ページの設問29、「調べたり、まとめたりしたことを振り返り、改善することができる」について、意識した授業改善を期待しています。

ちなみに、令和3年、4年度を比較した向上・低下項目数と令和4年、5年度を比較した向上・低下項目数を表にしてみました。向上項目数に着目すると、このような結果になりました。教育長が冒頭おっしゃっていたように、来年度はより一層力を入れていく必要があると感じています。

事務局からは以上です。

委員長

はい。ありがとうございました。

ただいまのご報告を踏まえまして、保護者代表の委員の方々、校長先生からの委員の順番で、何かご感想などを順番にちょっと賜ればと思っております。

初めに、原委員、いかがでしょうか。

原委員

はい。この資料3の調査票を見させていただいて、ちょっと低学年と中学年のほうで、低下というか、向上が少ないところが見受けられたんですが、

思考力について、もう少し子どもたちと一緒に向上させていただければいいのかなと思います。それに関して、やっぱり先生だったり、保護者だったりと一緒にあって、子どもたちのために取り組めていけることがあれば、一緒にやっていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

委員長

ありがとうございます。

次に、高田委員、お願いいたします。

高田委員

はい。ありがとうございます。

私も、情報活用能力に関する実態調査の結果なんですけれども、ここに書いていらっしゃるように、情報モラルということがすごく中学生にとって重要だと感じました。もう1つが健康という部分です。

Society 5.0、これはもう皆様方に言うまでもないんですけれども、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間社会中心の社会ということで、大人はもう既にフィジカル空間での倫理を経験して、情報を活用しているので、サイバー空間上での一定の倫理感も持っているというところがあると思います。ただ、子どもたちは、フィジカル空間での倫理を経験前に、同時に、サイバー空間にアクセスをもうしてしまっているという状況があって、特に中学生ですと、自分のコミュニティが比較的広がってきて、小学生に比べると、多分、こういった触れる機会はすごく多くなっているんじゃないかなと感じます。

まず、個人情報の扱いについてという12番と14番についてなんですけれども、「当てはまる」が低下している一方、意味が分からないという方もいらっしゃるということで、この「意味が分からない」という1%、これ、結構重要だなと感じていまして、本当に何を問いたいのか分からないという意味が分からないだったら、まだいいんですけれども、ちょっと本当に言うことが分からないということだと、やっぱり、こういった大事なことについて分からないというのは、きちんとケアしたほうがいいかなというのを感じました。

具体的には、例えば、事例を基に学びながら、危険性を伝えるワークショップというようなことで、もう本当にこのようなことって、例えば、自分はSNSとかインスタグラムとか、そういったのを通じてやっていることで、もうこんなことまで分かっちゃうんだよ、というようなことを伝えるとか、そういったような具体的な事例を基に学びながら、危険性を伝えるワークショップが必要かなと感じました。

もう1つが倫理面についてです。これは、15番と16番辺りにあったんですけれども、例えば、インターネット上に役立つ情報のほかに、危険な情報もあるとか、発信した情報に対して責任があることを伝える必要があるということで、例えば、15番ですと、もう銃の作り方であるとか、詐欺であるとか、戦争のすごく厳しい画像であったり、そういったもの、それから、アクセス先によっては、コンピュータウイルスに感染してしまうということ。そ

れから、16番についても、発信した情報に対しては、フェイクニュースということで、少し前に地震でありましたけれども、自分のアクセス数を稼ぐために、間違った情報を載せて、お金を稼ぎ、利用してしまうとか、あとは、最近、ピザ屋でもありましたけれども、迷惑動画ですね、ああいったところをやってしまうとか、そういったところの倫理感というところは、本当に伝える必要があると感じます。この中にも、やっぱり質問の意味が分からないという方は、少数ですけども、1%いらっしゃるということ。

フィジカル空間にアクセスできない年齢でも、サイバー空間には、もうやっぱり、特に学校環境からはないんでしょうけれども、家庭に帰れば、アクセスできてしまうということがあって、特に、この分野については、学校の先生方もそうですし、保護者もそうですし、子どもたちのほうが詳しい場合もあるわけですね。そういった状況の中で、やっぱり家庭とも連携をしながら取り組むことが不可欠だと感じます。

最後は、やっぱり健康面ですね。コンピュータやインターネットの使い過ぎによる健康への影響、これも非常に重要だと感じています。これも「当てはまる」が減少していて、「どちらかといえば当てはまらない」、「当てはまらない」というのが増加しているということで、健康に対して影響があるということあまり重要だと思っていない方が増えているというようなところがすごく危険だなと思います。これも、やっぱり家庭でのルールづくりであるとか、依存症からの観点からの示唆になるヒントがないか、そういったところで、解決策を導けないかなと思います。

その視点で、やっぱり中学生ということで、学校と家庭、もう本当に連携して、子どもたちのケアに当たっていく必要があるかなというふうに感じていまして、特に倫理感と健康面、この辺り、来年度取り組んでいただきたいなというのを感じました。

以上です。ありがとうございます。

委員長

高田委員、ありがとうございました。

次に、岡野委員、お願いできますでしょうか。

岡野委員

はい。2点あります。1つは、調べたり、まとめたりすることはできるようになってきたけれども、伝えることまでできるように注力しますというお話、これはまさに重要だと思っているので、来年度の課題としてやっていただけたら、本当にありがたいなと保護者として思います。

もう1つ、先ほど高田さんもおっしゃっていたような情報モラル、こちらについても、来年度改善するというふうにおっしゃっていただいているのが、非常に心強いなと思っております。ほかの学校もそうかもしれませんが、九段中等では、今、生徒たちが自分のスマホを持ち込んで、それで検索等々もできるように、学校の体制のほうを変更していただきました。気軽にいろんな調べ物をするというところもちろんなんですが、同時に情報モラルをしっかり生徒たちにご指導いただけたら、本当にありがたいなと思っております。

総じてですけれども、本当にいろんなことに注力していただいて、データを基に分析して改善していただいているのがよく分かりますので、感謝しかありません。ありがとうございます。

以上です。

委員長

岡野委員、ありがとうございました。

次に、九段中等教育学校の野村委員、いかがでしょうか。お願いします。

野村委員

はい。この内容については、活用状況が上がるとか、年々、いろんな状況があるのかなとは思いますが。モラル等についても、学習の中でしっかりと伝えている、あるいは、全体の生活指導として、その辺りの指導をするということはやってはいるんですけれども、今、岡野委員からも話がありましたけれども、九段中等の場合は、スマホ、もう、これは前期課程も含めてなんですけど、授業で使っているよということで、全て解禁しました。

1つ、教員から当然反対もあったんですけれども、要するに、こういった利便性のあるもの、使い方を誤ってはいけないようなものについて、一応、理論上は駄目だという、例えば、モラルとか、そういったことはやっているけど、じゃあ、実際に、学校で使わせているかというのと、使わせていない。学校では電源を切ってしまうてください。で、門を出たところで、勝手に生徒たちは使っている。そこにちょっと矛盾点を感じるというところもあって、だったら、先生たちの指導の負担は確かに上がっているところもあるんですけれども、実際、学校で使っていく、学習で使うということはどういうことか、それで、使っている場合には、教員が指導するのもそうですけど、生徒相互でやはり指導し合うんですね。そういったことも、モラルを全体的に上げていくということは大事なのかなと。教員がただ教えるわけではなくて、お互いに環境、そういった環境に置いていくということも大事なのかなということで、行っております。

これから先、いろいろともっと発達してくれば、生徒もいろんなものに触れていく中で、その心理とか、そういったものを学んでいかざるを得ないので、学校としても、もうそういったレベルをもっともっと高く、生徒よりも高くしていかないと、生徒のほうが早いので、何でも。その辺りの情報をしっかりとアンテナを高くもっていく必要があるのかなとは思いますが。

とにかく学習でどう生かすか、中身を本当に学習に使っているのか、それ以外に使っているのかどうか。それ以外に使うと、学習の時間は当然短くなっていきますので、その辺りのことも、きちっと学校としては把握しておく必要、学習時間というものは把握しておく必要があるだろうなと思います。

以上です。

委員長

ありがとうございます。

次に、神田一橋中学の盛谷委員、お願いいたします。

盛谷委員

はい。また情報モラルの話になりますが、携帯電話とかスマホ、スマートフォンについては、やはり保護者に対して協力を求めているというのが実情です。保護者会のたびに、ケータイの本人の所持については、ご家庭の責任

でやってくださいね、というのを常に言い続けていますし、生徒のほうも、SNSルールというのを出しつつ、生徒の中での倫理観の向上というのは図っているところです。一方で、やっぱり学校で使っているタブレットでも、意図的にこういうほかの生徒の提出物にいたずらをする生徒がいた場合、注意を行うのですが、そういうことがあるから、タブレットの扱いを制限しましょうとか、持ち帰りをやめましょうなどの方向に行かない舵取りは、管理職として気を付けながらやっています。もちろん倫理感の向上というのは大切なことなのです。

また、調べたり、まとめたりとかということが、計画的に進めるところについては、生徒が主体的に学習を進める割合を高めていかないと、なかなか向上しないところかなと思っているので、継続的に取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

委員長

ありがとうございました。

次に、富士見小学校の小牧委員、お願いいたします。

小牧委員

はい。先ほどご説明があった実態調査から3つ、小学校に関することとお話しさせていただければと思います。

1つ目は、低中の低下傾向の項目が多いということだったんですが、例えば、キーボード操作とか、そのほかのこと、ちょっとこれは実態を見なければ分からない、もうちょっと分析しなければいけないと思うんですが、子どもの意識も変わってきているのかなと。今、当たり前のように、入学前からタブレットを触っているんで、例えば、キーボードで文字が打てるかというの、ここ二、三年で、大きく子どもたちの意識も変わっているのかなと感じました。私が自校の実態を見ますと、普通にブラインドタッチできる子どもたくさんいますので、そこが子どもたちの上で、いや、もっとできる子がいるという分析にもなっているのかなと思いました。

2つ目、考察のこの1ページに書かれている実態調査結果の中学年の課題にありますけど、日常的に調べて、まとめて、意見交換をする学習の必要性というふうに言われています。自校を見ても、高学年が当たり前で共有したり、意見交換したり、自分の学習を自己選択するというためには、この中学年の学習がやっぱり大事なんだと改めて思っています。ここでどう活用し、どのように慣れさせていくかが大事なんだと思います。

最後、高学年ですけれども、17ページにある自分なりの考えを伝えるようにする。これは、やっぱり、本校でも、このアンケート調査が一番低くて、うちの研究テーマにもしているんですけれども、自分の考えを話すということがやっぱり苦手。知識はあるのに、苦手だというふうになっています。だからこそ、こういうICTももちろんなんですけど、教科横断的な視点に立って、汎用的な力を身に付けるということが大事なのかなと思いました。

以上です。

委員長

ありがとうございました。それでは、委員の皆様、活発なご意見ありがと

うございました。

最後に、来年度に向けてのアドバイスや方向性など、そういったものを三井委員と佐藤委員からご示唆いただければと思います。

初めに、三井委員からお願いできますでしょうか。

三井委員

はい。山梨大学の三井でございます。ありがとうございます。

また、先ほどの委員の先生方の議論を聞いていまして、例えば、情報モラルやセキュリティのところですね。こういったものって、当然、発達段階に応じた内容が必要ですし、そして、繰り返し指導していくということなんだと思います。低学年で指導したから、それで終わりとか、そういうわけではなくて、繰り返し繰り返し発達段階に応じた内容で指導していくということが必要になってくると思います。ただ、教師側が頑張っただけではなくて、ぜひ、児童・生徒にも主体性をもたせて、一緒にルールを考えると、一緒にどうすればいいのかということに参画させるということが何より大事なかなと思っております。

また、先ほどのいろんな調査のところを見たところ、やっぱりインターネットが日常的になったからこそ、インターネットを使って検索ができるかと、非常に割合がでかいと思うんですね。「できる」と回答する児童・生徒が多いんですけど、でも、実際どうなんですかねみたいなところを考えたときに、取りあえず検索ワードを入れて、出てきたものの一番上を見ているという子は、実は、多い気が、私はいろんな学校現場に行って、見ていて思います。そこから、例えば、調べ学習したとしても、特に出典を書かずに、どこからの情報かも分からないとか、情報同士を混ぜてしまうとかみたいなこともいっぱいありますので、ぜひ、数値には出ないところですね、インターネットを使って、検索は確かにできるけど、でも、それって、もっといい検索の仕方があるんじゃないとか、もっとこれを指導すべきじゃないかということ、先生方同士で共通理解を図っていくことが大事なかなと思っておりました。

本日、岡野委員のほうからですか、保護者として、学習目標に到達できない子への手だてとか、そういうところが気になるみたいなお話があったんですが、保護者側として、やっぱりそういうところも気になるんだなということをおもいました。ですので、子どもたちに委ねたりとか、そういう割合が増えてくるんですけど、でも、学習目標として、この時間にはこれを到達できるようにしようといったことを、教員自身が明確にもち、それを、子どもたち、児童・生徒と共有する中で、先生もファシリテーターとして伴走していくということをベースに置いていくということが、やはり大事なのかなと思います。そういったことを繰り返していく中で、保護者がそういった授業を見たときに、自分のペースで学びつつ、最低限の到達すべき目標があって、そこに到達できない子には、当然、先生がフォローしたりとか、今まで以上に手厚く指導しているんだということが伝わるということが大事なかなと思っておりました。また来年度に期待しております。

委員長

以上です。

どうもありがとうございました。

次に、佐藤委員、お願いできますでしょうか。

佐藤委員

はい。ありがとうございました。千代田区様に取り組まれていることが、よく分かりました。ありがとうございました。

こういう会というのは、なかなか多いものではなくて、いろんな自治体を見ておりますけども、このような会があるということ自体、意味があると、私は考えています。

情報モラルの話なんですけども、情報モラルで、何か子どもがいろいろやるわけなんですけども、普段の学習とか生活がつまらないんだと思っています。どこかの教育長先生と話したんですが、昔は学校が最新だったんだよねと言っていました。だから、地域に大事にされて、何かあれば、学校に行くみたいな時代があったじゃないですかと。今は、最新じゃないんだよねということに寂しそうに言っていた教育長先生が、長野県にいました。それが1つ目です。

2つ目は、さっき三井先生もおっしゃっていた、岡野さんの指摘の話です。子どもに委ねると、下の子はどうなるのみたいな話なんですけども、じゃあ、先生が教えたからといって、今までだって、できなかったじゃんみたいな話。だから、じゃあ、どうするのかということを考えていかなきゃいけないんだと思います。

私、長野なので、家からスキーはすぐ行けるんですよ。一番近いところで、長野市内から20分で行けて、私は息子とよく行くんですけども、やっと最近よく滑れるようになってきました。よく滑れるようになってくると、よく学ぶようになってくるんですね。でも、かといって、よく滑れない頃に、きちんと何か細かい話をしても、あんまり聞く気にもならないし、つまらなそうにしているし、つまり、実装できて、ようやく学ぶみたいな。

何が言いたいかという、個別最適な学びみたいな話とか、自己調整学習という話も、やり方があって、自分でできるようになってくると面白いとかになるわけなんですけど、最初から細かい話をしたからといって、すぐ分かるみたいな話というのはあまりないわけですね。スキー初心者に外向傾だとか、カービングだとか、そんなことを言ったところで、伝わりもしない話です。そういうのが学校教育に関連させて考えたときに、たくさんあるわけですね。

ですから、学び方みたいなことが非常に重要なんじゃないのかなと。まず、自分でやる。量を頑張ることができるようになっていったら、ようやく質が上がっていくみたいな方向性だと思います。今まで、習得・活用・探究と言われていました。習得が強くて、よく分かる授業をしましょう、質を高めていきましょうと言われていたんですけども、そもそもよくできない人たちに質を高めるみたいなことというのは、本来、多分、無理があったんじゃないのかということも感じているところでございます。

委員 長

また議論を先生方とさせていただきます。本日はありがとうございました。

佐藤委員、ありがとうございました。

本日、それぞれのお立場から様々な貴重なご意見を頂戴いたしました。ありがとうございました。

これまでのアドバイスや意見を受けて、ICT教育の施策推進の所管としての指導課、山本委員から来年度の方向性や受け止めなど、総括的にコメントしていただければと思います。

山本委員

はい。指導課長の山本です。

委員の皆様、本日はありがとうございました。

私からは、お礼と感想と振り返りということで、少しお話をさせていただければと思っております。

今年度、新たに立ち上げました千代田区教育ICT推進委員会、6月の末と本日ということで、今年度、2回開催をさせていただきました。委員の皆様におかれましては、本当に忌憚のないご意見、ご指導いただきまして、ありがとうございました。

改めて、この推進委員会の設置要綱を確認したところ、所掌事項として、教育ICTの推進に係ること、教育ICTの環境整備に係ること、そして、教育ICTの活用に係ることというような、大きく3つ示されております。千代田区においては、令和2年11月ですか、全国、全都に先駆けて、子どもたちにタブレットを配付して、3年と3か月、4か月が経とうというところになります。

本日の議題にもありましたけれども、今年度を振り返ってみると、アンケート結果からも、伸びているところもあれば、情報モラルを含め、低下している項目もある。教育長も中だるみ的な傾向はないかというようなお話があったかと思っております。そんな中、保護者委員の皆様からも、実際に感じていらっしゃる課題をお話いただきました。モラルの話、健康の話、自分のペースのお話、様々頂きました。そういったご意見を真摯に受け止めて、所管課としては、特に活用とモラル、健康は両輪であるというような認識も踏まえて、しっかりと取り組んでいきたいと思っているところです。

そして、来年度に向けてということで、お話も頂きました。これまでここ2年間、教育委員会指導課といたしましては、何度かオンラインであったりですとか、オンデマンドで保護者セミナーを開催させていただき、学校の取組、頑張っているところ、子どもたちの頑張りなどを発信させていただき、保護者の方にも理解をしていただきたいと考えていたところです。また、来年度は、先ほど来お話が出ているように、「ちよだスマートスクールの日」ということを新たに設定いたしまして、保護者、地域の方に、教員の取組や子どもたちの頑張りについて、見ていただく、知っていただく機会を設定しているところです。

我々といたしましても、ロードマップとして、まずは、教師と子どもがつながる学び、そして、ステップ2として、子どもたち同士がつながる学び、

そして、ステップ3として、子ども自身が学習方法を決める学びというところで、3つのステップを考えております。もちろん教科や学びの場面によって、戻ったりですとか、様々かと思えますけれども、そういった中、佐藤先生ですとか、三井先生からは、例えば、子どもの立場では、生涯にわたって学び続ける子どもたち、先生がいなくても自分から学びを進められる子どもたちを育成していく必要性、そして、大人側の問題として、活用の日常化の先にあるものを考えたりですとか、学習の学びを支えるために何ができるのか考えるということの必要性について、ご指導いただいたところです。

千代田区教育委員会としても、授業のあるべき姿、それから、教師の役割というところを改めてしっかりと令和6年度以降も考えていきたいと思っているところです。

進める進化と、深める深化を止めないということで、これからも皆様方からご指導いただきながら、区教育委員会として、子どもたちのためにしっかりと取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。

委員長

はい。山本委員、ありがとうございました。

最後に、事務局から連絡事項がございます。お願いいたします。

相場指導主事

はい。今年度、委員会として皆様にお集まりいただくのは、今回が最後となります。来年度についてですが、本委員会は継続する予定ですが、人事異動やお立場が替わられる方等もいらっしゃると思いますので、令和6年度になりましたら、改めてご連絡させていただきたく存じます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは以上です。

委員長

はい。ありがとうございます。

それでは、以上をもちまして、令和5年度第2回千代田区教育ICT推進委員会を閉会いたします。皆様、どうもありがとうございました。